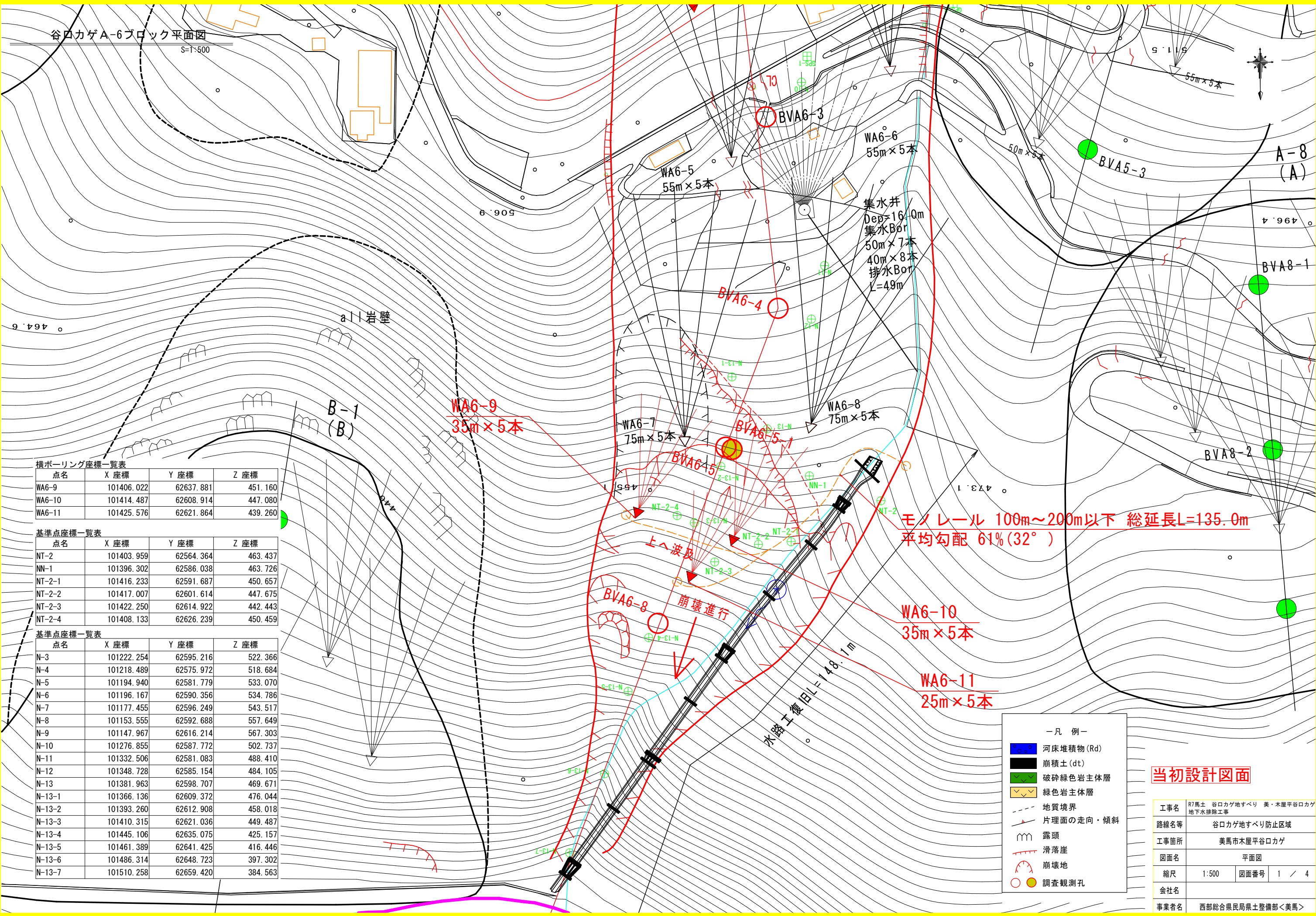




横ボーリング座標一覧表

点名	X 座標	Y 座標	Z 座標
WA6-9	101406.022	62637.881	451.160
WA6-10	101414.487	62608.914	447.080
WA6-11	101425.576	62621.864	439.260

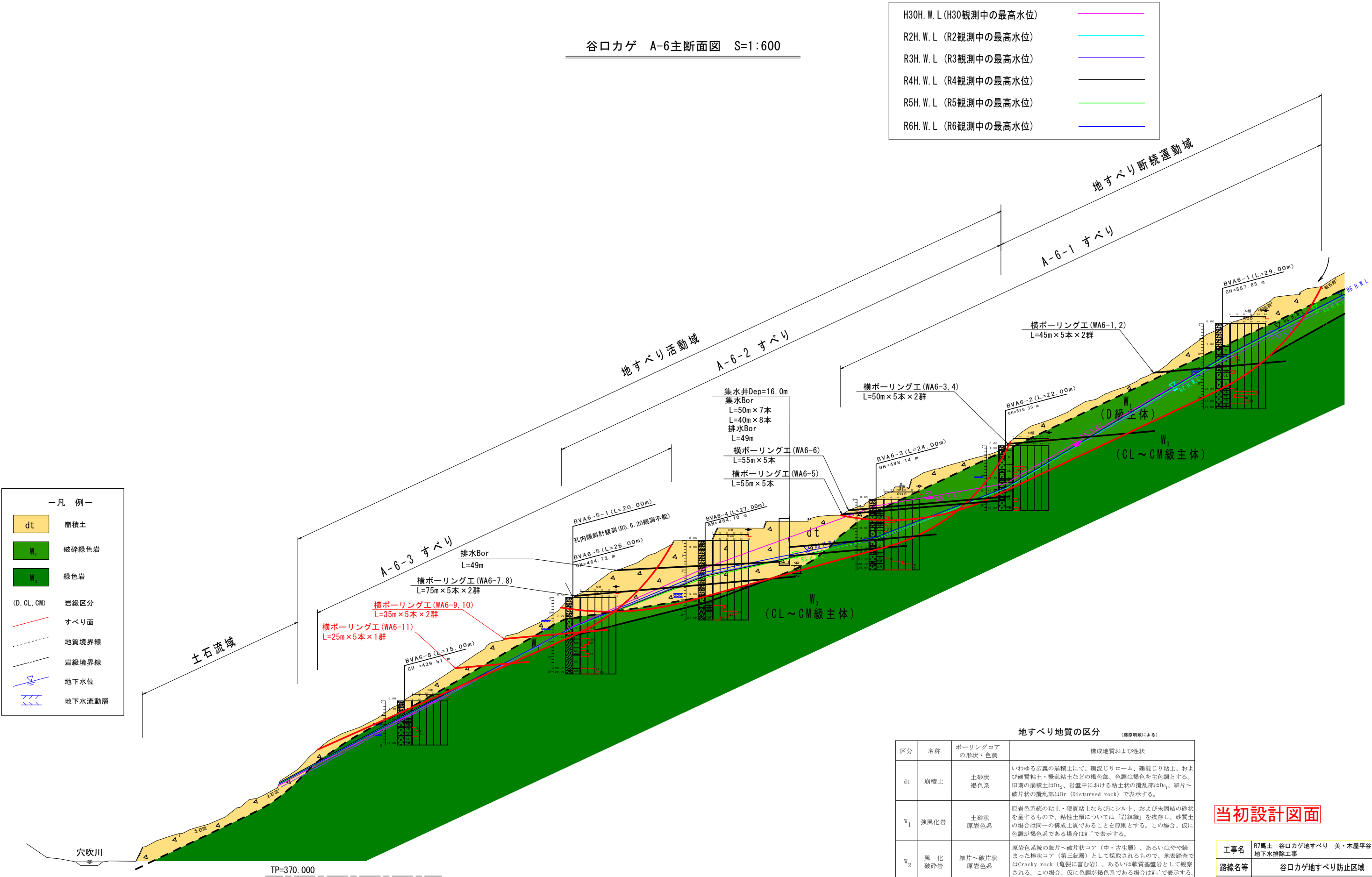
基準点座標一覧表

点名	X 座標	Y 座標	Z 座標
NT-2	101403.959	62564.364	463.437
NN-1	101396.302	62586.038	463.726
NT-2-1	101416.233	62591.687	450.657
NT-2-2	101417.007	62601.614	447.675
NT-2-3	101422.250	62614.922	442.443
NT-2-4	101408.133	62626.239	450.459

基準点座標一覧表

点名	X 座標	Y 座標	Z 座標
N-3	101222.254	62595.216	522.366
N-4	101218.489	62575.972	518.684
N-5	101194.940	62581.779	533.070
N-6	101196.167	62590.356	534.786
N-7	101177.455	62596.249	543.517
N-8	101153.555	62592.688	557.649
N-9	101147.967	62616.214	567.303
N-10	101276.855	62587.772	502.737
N-11	101332.506	62581.083	488.410
N-12	101348.728	62585.154	484.105
N-13	101381.963	62598.707	469.671
N-13-1	101366.136	62609.372	476.044
N-13-2	101393.260	62612.908	458.018
N-13-3	101410.315	62621.036	449.487
N-13-4	101445.106	62635.075	425.157
N-13-5	101461.389	62641.425	416.446
N-13-6	101486.314	62648.723	397.302
N-13-7	101510.258	62659.420	384.563

谷口カゲ A-6主断面図 S=1:600



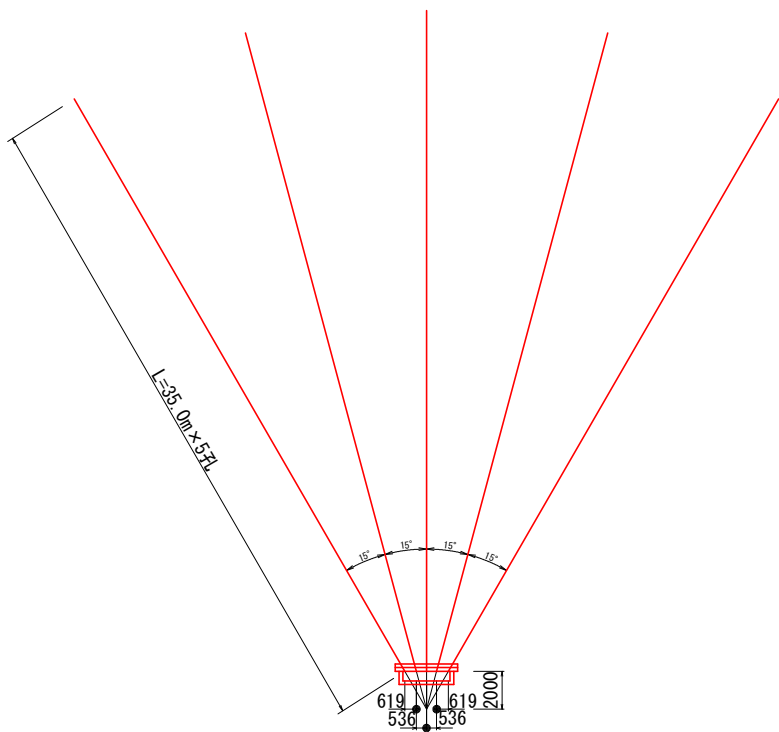
地すべり地質の区分			
区分	名称	ボーリングコアの形状・色調	構成地質および性状
dt	崩積土	土砂状 褐色系	いわゆる広義の崩積土にて、礫混じりローム、礫混じり粘土、および硬質粘土・攪乱粘土などの褐色部、色調は褐色を主色調とする。旧期の崩積土はDt ₂ 、岩盤中における粘土状の攪乱部はDe ₁ 、細片～破片状の攪乱部はDr (Disturbed rock) で表示する。
W ₁	強風化岩	土砂状 原岩色系	原岩色系の粘土・硬質粘土ならびにシルト、および未固結の砂状を呈するもので、粘性土類については「岩組織」を残存し、砂質土の場合は同一の構成土質であることを原則とする。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₁ 'で表示する。
W ₂	風化 破砕岩	細片～破片状 原岩色系	原岩色系の細片～破片状コア（中・古生層）、あるいはやや縮まった棒状コア（第三紀層）として採取されるもので、地表踏査ではCracky rock（亀裂に富む岩）、あるいは軟質基盤岩として観察される。この場合、仮に色調が褐色系である場合はW ₂ 'で表示する。
W ₃	弱風化岩	円板状～塊状 原岩色系	原岩色系の円板状～塊状コア（中・古生層）、あるいはよく縮まった棒状コア（第三紀層）として採取されるもので、地表踏査では新鮮な基盤岩として観察される。この場合も褐色系のものはW ₃ 'で表示する。
Rf	基盤岩	棒状（完全コ） 原岩色系	新鮮な基盤岩にて、岩質のいずれを問わず棒状（完全コ）として採取され、全般的に硬質なもの。

当初設計図面

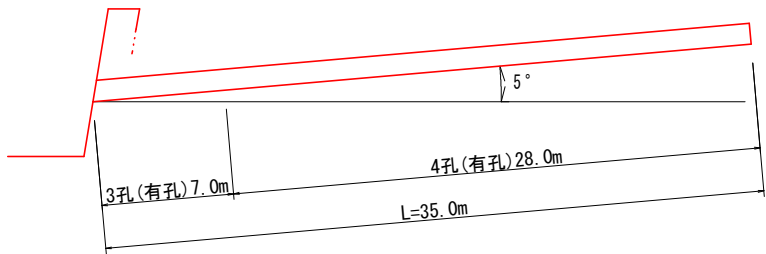
工事名	R7馬土 谷口カゲ地すべり 美・木屋平谷口カゲ 地下水排除工事		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木屋平谷口カゲ		
図面名	断面図		
縮尺	1:600	図面番号	2 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		

横ボーリング工構造図-詳細図

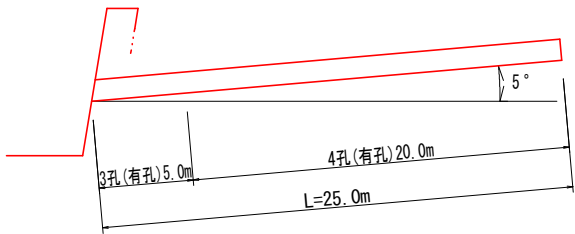
配置図(WA-9, WA-10)
S=1/200



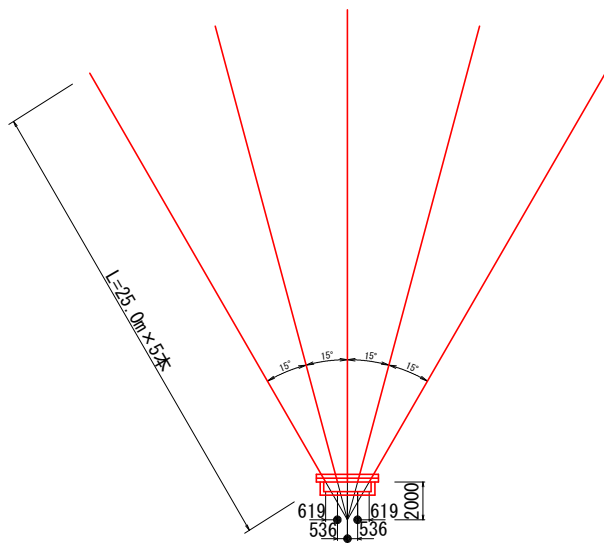
WA-9, WA-10



WA-11

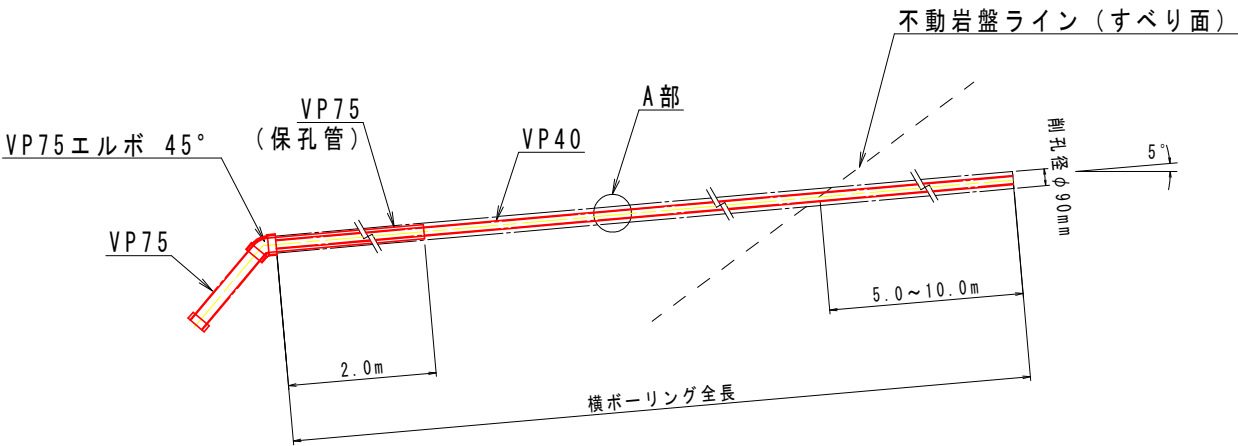


配置図 (WA-11)
S=1/200

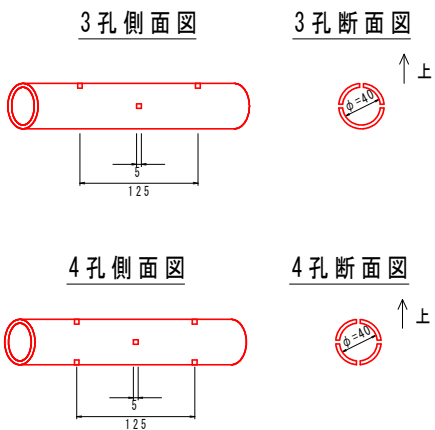


孔番号	掘進長 (m)	地質別掘進長(m)	
		礫混じり土砂	軟岩
WA-9	175.0	130.0(26.0*5)	45.0(9.0*5)
WA-10	175.0	130.0(26.0*5)	45.0(9.0*5)
WA-11	125.0	95.0(19.0*5)	30.0(6.0*5)
計	475.0	355.0	120.0

断面図 S=1/20



A部保孔管(VP40)詳細図 S=1/4



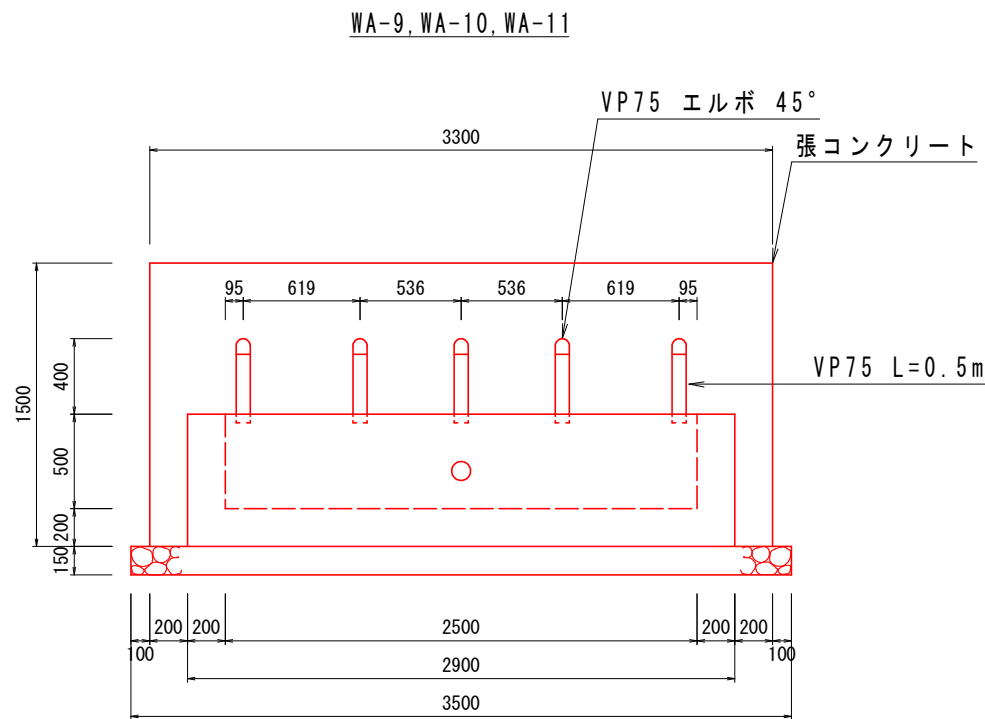
保孔管数量表 (VP40) (m)		
WA-9	3孔長	7.0*5= 35.0
	4孔長	28.0*5= 140.0
WA-10	3孔長	7.0*5= 35.0
	4孔長	28.0*5= 140.0
WA-11	3孔長	5.0*5= 25.0
	4孔長	20.0*5= 100.0
計	3孔長	95.0
	4孔長	380.0

当初設計図面

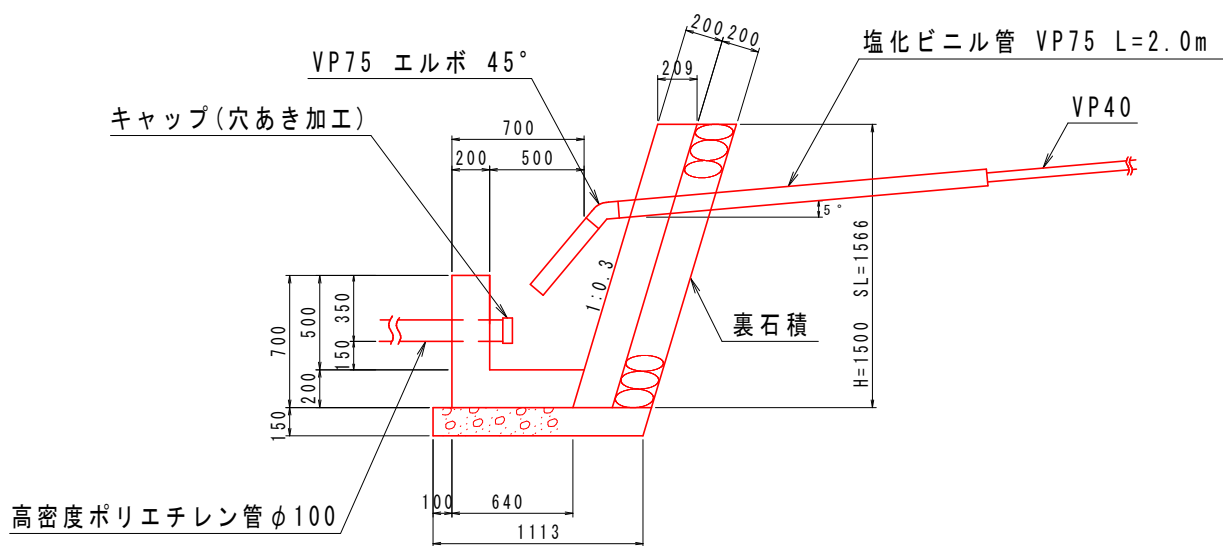
工事名	R7馬土 谷口カゲ地すべり 美・木屋平谷口カゲ 地下水排除工事		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木屋平谷口カゲ		
図面名	横ボーリング工構造図・詳細図(1)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		

排水処理施設詳細図

正面図 S=1/20



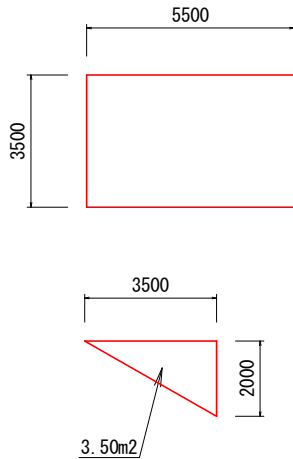
断面図 S=1/20



1箇所当たり

数量計算書			
種別	算式	単位	数量
張コンクリート	$0.21 \times 1.50 \times 3.30$	m ³	1.04
同上型枠	$1.57 \times 3.30 + 1.57 \times 0.2 \times 2$	m ²	5.81
裏石積	1.57×3.30	m ²	5.18
集水樹コンクリート	$(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 \times 2.9 - (0.65 + 0.5) \times 1/2 \times 0.5 \times 2.5$	m ³	0.79
同上型枠	$2.9 \times 0.7 + 2.5 \times 0.7 + [(0.85 + 0.64) \times 1/2 \times 0.7 + (0.65 + 0.44) \times 1/2 \times 0.7] \times 2$	m ²	5.59
基礎碎石	1.135×3.50	m ²	3.97
塩化ビニル管 VP75	$0.50 \times 5 + 2.00 \times 5$	m	12.5
VP75 エルボ 45°		個	5
キャップ	穴あき加工	個	1

横ボーリング足場 S=1/100



孔口処理孔 数量表

箇所	WA-9	WA-10	WA-11	合計
項目	数量	数量	数量	数量
張コンクリート	1.04 m ³	1.04 m ³	1.04 m ³	3.12 m ³
同上型枠	5.81 m ²	5.81 m ²	5.81 m ²	17.43 m ²
裏石積	5.18 m ²	5.18 m ²	5.18 m ²	15.54 m ²
集水樹コンクリート	0.79 m ³	0.79 m ³	0.79 m ³	2.37 m ³
同上型枠	5.59 m ³	5.59 m ³	5.59 m ³	16.67 m ³
基礎碎石	3.97 m ²	3.97 m ²	3.97 m ²	11.91 m ²
床掘	1.0 m ³	1.0 m ³	1.0 m ³	3.0 m ³
埋戻	0.0 m ³	0.0 m ³	0.0 m ³	0.0 m ³
塩化ビニル管 VP75	12.5 m	12.5 m	12.5 m	37.5 m
VP75 エルボ 45°	5 個	5 個	5 個	15 個
キャップ (穴あき加工)	1 個	1 個	1 個	3 個
足場(単管)	19.2 空m ³	19.2 空m ³	19.2 空m ³	57.6 空m ³

排水処理
高密度ポリエチレン管φ100

WA-9	70 m
WA-10	45 m
WA-11	70 m
合計	185 m

当初設計図面

工事名	R7馬土 谷口カゲ地すべり 美・木屋平谷口カゲ 地下水排除工事		
路線名等	谷口カゲ地すべり防止区域		
工事箇所	美馬市木屋平谷口カゲ		
図面名	排水処理施設詳細図		
縮尺	図示	図面番号	4 / 4
会社名			
事業者名	西部総合県民局県土整備部<美馬>		